

## 世界遺産登録による富士登山者の増加における問題と改善策

史 中超 研究室

1031064 片山陽介

### 1. 研究背景と目的

近年、空前の登山ブームにより、富士登山者数が増加している。富士山は平成 25 年年 6 月 26 日に開催された世界遺産委員会において世界文化遺産登録されたことにより、日本国内だけでなく、世界各国からの登山者の増加が予想される。登山者の増加に伴って、ごみ問題、トイレの維持、山小屋の不足、マイカーの集中、事故、災害などの問題が浮かび上がってくる。本研究では、登山者が快適な登山活動ができるように、それらの問題に対する改善の提案を行う。

### 2. 富士登山者増加による現状と問題

世界遺産に登録されたことによって、さらなる登山者の増加が予想され、山小屋の不足やトイレの維持・管理の問題が懸念されている。最も登山者が多い登山ルートは吉田ルートであり、約 20 の山小屋がある。単純計算で 1 日 4000 人が宿泊できるのだが、平成 25 年には 10,000 人を超えた日が 3 日あり、山小屋不足が深刻化している。山小屋が不足することで、弾丸で登山する人が増え、高山病や事故の危険も高まる。

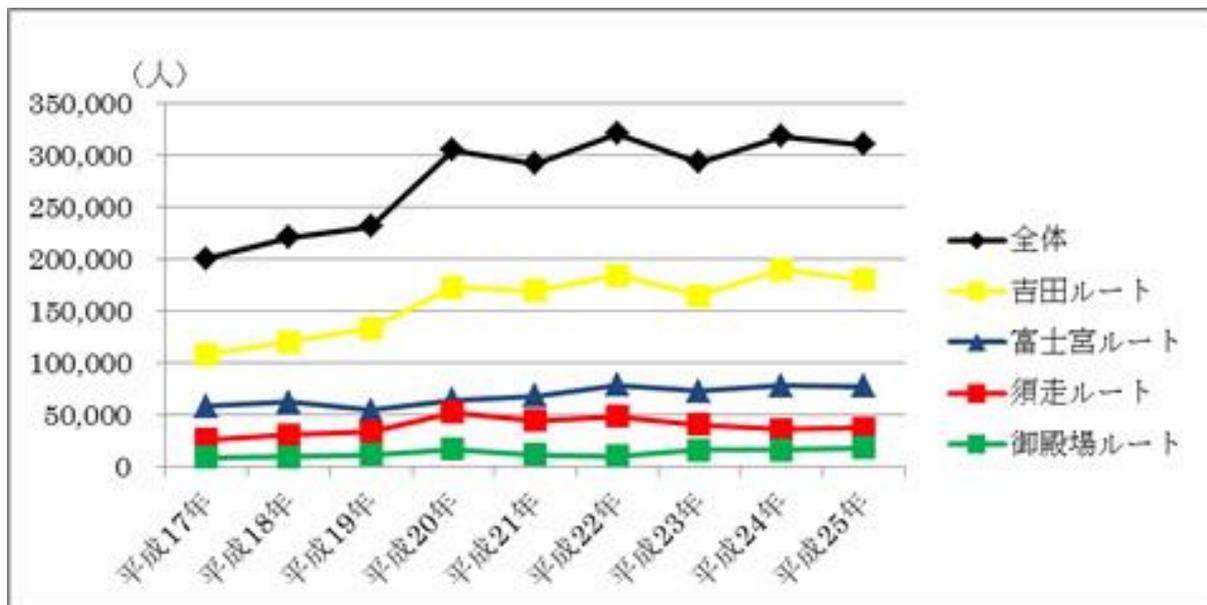


図 1：平成 17 年からの富士山の全登山者数及び各登山道別登山者数の推移

参考：関東地方環境事務所[1]

これは平成 17 年からの富士山の全登山者数及び各登山道別登山者数の推移である。平成 17 年には 20 万人ほどであった登山者は、平成 20 年には 30 万人、平成 24 年には 32 万人にまで達した。世界遺産登

録後初の平成 25 年の登山者数は 31 万人で過去 5 年と変わらなかった。登山者が増加した要因として挙げられるのは、山小屋、トイレの環境水準の上昇である。それに伴って、ツアーや外国人の登山者が急増したとみられる。また、近年の健康ブームに便乗して、30~40 歳の中高年の登山者も増えているという。

### 3. 登山者の増加に伴う問題に対する改善案

登山者が増加することで様々な問題が起こるため、登山者を減らすことが問題解決の鍵だと考えられる。

Web サイトヤマケイでは、「みんなの登山白書」というページがあり、「登山者を減らすためにどのような施策がいいと思う？」というアンケートがあった。その結果によると、入山規制をしていいと回答した人がもっとも多く約半数を占め、次いでマイカー規制、高額の入山料の徴収の順という結果が示された。[2]

以上のことを踏まえ、以下の改善策を提案する。

#### 1) 入山規制

- ① 完全予約制を取り、1 日に登山できる人数を制限する。
- ② 混雑する土日の登山者を平日に分散させる。

平日の山小屋や、ツアーの価格を土日より安くして、土日への集中を避ける。

#### 2) マイカー規制の強化

最も混雑する夏季登山シーズンのマイカー規制を一層強化する。また、世界遺産登録後初の登山シーズンを迎えた平成 25 年年の山梨県側の富士スバルラインのマイカー規制は期間を通常の 2 倍の 31 日間と強化している。

#### 3) 高額の入山料の徴収

京都大学の栗山浩一教授（環境経済学）が推計した結果では、登山者数を現在までと同じくらいに抑えるためには、7,000 円を徴収する必要があるとされている。一方、「入山料はいくらが妥当だと考えますか？」というアンケートでは、3,000 円未満が 6 割を占めた[2]。低額では効果が得られないため、3,000 円以上の入山料が適当であろう。3,000 円~7,000 円の登山料を任意ではなく強制で徴収する。

### 4.まとめ

私たち日本人にとって、富士山の世界遺産登録は大変嬉しいものである。その一方で登山者が増加することにより、様々な問題が起こる。登山者一人ひとりが快適に登山するためには、いくつかのルールとマナーを守らなければならない。今や富士山は世界の宝となった。これからもそうあり続けるためにはより一層の努力が必要である。

### 5.参考文献

[1] 関東地方環境事務所 URL <http://kanto.env.go.jp/>

[2] ヤマケイ「みんなの登山白書」URL <http://www.yamakei-online.com/>